

WEB 版

道徳だより

# こころのたね

令和4年9月7日  
大田区立馬込小学校  
校長 山本 秀一  
道徳部  
R4 年度 第1号

## 道徳だより「こころのたね」を発行します

本校の学校教育目標の1つに「心の豊かな子ども」が掲げられています。この“心”を育む道徳教育の中心的な役割をしているのが道徳の時間です。身体の健康とともに、心も健康であることが大切です。また、道徳は道徳の時間だけでなく、学校の教育活動全体、そして、ご家庭や地域全体で育むものです。この「こころのたね」が、学校とご家庭とを結ぶ役割を担っていかれたらと思っています。日頃、本校でどのような道徳教育が行われているのかを知っていただき、学校・児童・保護者がともに、よりよく生きることの大切さを考えるよい機会になることを願って発行します。どうぞよろしくお願いいたします。

## 「特別の教科 道徳」について

道徳科は平成27年の学習指導要領の改訂で教科化になりました。ちなみに、教科名にある「特別の～」はなぜ特別なのでしょう。それは、道徳の評価は難しく、子どもの心の成長の様子を A・B・C で表すことは難しいことも理由の一つであり、「特別の～」という名称になっています。

道徳科の内容は、全学年、以下の4つの視点から構成されています。

- ① 自分自身に関すること（基本的な生活習慣など）
- ② 他の人とのかかわりに関すること（礼儀・親切・友情など）
- ③ 自然や崇高なものとのかかわりに関すること（生命尊重など）
- ④ 集団や社会とのかかわりに関すること（勤労、郷土愛など）

## 3年生の道徳科の時間

「道徳だより」では、各学年の道徳科授業の様子をお伝えしていきます。今月は3年生です。7月の学校公開での授業です。この日の授業では、友だちを助けに行こうと決めるまでの心の葛藤について、子供たちの考えを引き出し、自分ならどのような行動をとるかについて考えました。

テーマ: 友情

あらすじ: 友だちである3人の男の子の話です。3人が近所の雷じいさんの家で虫取りをしていたところ、じいさんに見つかってしまい、逃げ出しました。途中でヒデトシが転んでしまい、じいさんにつかまわってしまいました。ヒデトシを助けに行くかどうか、2人は悩んだ末に助けに行くことを決心します。すると、雷じいさんから怒られるわけではなく、ヒデトシからも感謝され、友だちの大切さに気付く教材です。

⇒裏面に続きます



友だちを“助ける”、“助けない”と  
いろいろな意見がでました。

### 子どもたちの考え

ヒデトシを助ける：・一人だけ怒られてかわいそう／・大切な友だちだから／・助けなかったら、他の人から信用も無くしてしまう／・自分がかまったら、助けてほしいから。

ヒデトシを助けない：・親友なら助けるけど、普通の友だちなら助けない／・逃げる途中で転んだのが悪い／・自分の身は自分で守らないと先々に苦勞する／・怒られるのはこわい。

授業の最後では、『これから自分が友だちのためにできることは何でしょう』について振り返りをしました。

- ・友だちがどのようにされたら、いい気持ちになるか考え行動したい。
  - ・自分にやってくれて、うれしかったことをやってあげたい。
- などの意見が出ました。

## コラム 「当たり前」を自覚する意味

海外の方々が日本を訪れたとき、「落とし物のお財布や大切な物が無事に戻ってきた。」という驚きの声をよくメディアで見かけます。我々日本人からすると、「そんな当たり前」と思うかもしれませんが、「当たり前」と言えるほど無意識のうちにやっていることだからこそ、油断をするといつの間にか無くなってしまふということもあるのではないのでしょうか。「良いところ」をしっかりと自覚し、無意識ではなく意図的に行うことで、次の世代の子供たちに大切なものを伝えていくことができる気がします。